

## 第2回橋本道夫記念シンポジウム パネルディスカッション発表③



(独法)国際協力機構 地球環境部長 武藤めぐみ

私は気候変動適応という大きな課題に関し、JICAの挑戦を3つご紹介したいと思います。

JICAでは援助機関としてSDGs達成を目指すうえで、他のSDGsを支えるベースラインとして気候変動問題にしっかりと対処することが重要だと認識しています。気候変動に強靱な社会形成に向け、分野横断的に取り組み、途上国と共にコ・イノベーションを生みだし、社会変革を目指そうと日々の業務に取り組んでいます。

最初の事例は、サヘル、アフリカの角地域におけるプロジェクトです。当初段階では、この地域における砂漠化への対処に関するプロジェクトとして始めたのですが、議論を進めていくうちに、「砂漠」という言葉に捉われず、森林、防災、水資源、地下水開発、農村開発等の分野全体を包摂してプロジェクトを進める必要性が出てきました。半乾燥地域では、干ばつがある一方、実は洪水の現象も起こっていて、両方の極端現象が交互に出てくるという状況で、そのためには統合水資源管理の観点からマルチセクター・アプローチで事業を進めてはという方向性が出てきました。そのため、現在はアフリカの気候変動適応を推進する枠組としてバージョンアップしています。

次の事例は、アジアの大都市における水の話です。アジアの大都市の水問題といえば、現象は水不足、水質汚濁、地盤沈下、洪水ということで、今までは、分野ごとにチームを組んで、個別に対応していましたが、もっと統合的な観点で進めることが重要なのではないかと問い掛けをはじめました。そこで気候変動対策、防災、水資源管理の3つの観点から大括りにして、ジャカルタでのプロジェクトを見直すこととしました。まず、工業用水汲み上げの問題に取り組む、地盤沈下を止めるための方策を模索していくこととし、それに水源確保、適応策を付け加え、将来的には、気候変動対策や防災の主流化も加え、相手国政府と政策対話をするような方向性もっていかねばと考えております。

そのバックグラウンドになるのは、先ほど来話題に出ております科学的なデータ、しっかりとした積み上げに基づく計画策定、人づくり、制度作りです。またODAは予算も限られていますが、SDGs及び気

候変動への対応ニーズは非常に高く、民間資金をどう巻き込むのが非常に重要になってきています。

三つ目の事例は、フィリピンのダバオにおけるプロジェクトです。気候変動による洪水の頻発、海水面の上昇、台風の強大化などの影響を統合的にとらえて計画しているところです。生態系も利用したeco disaster risk reduction (Eco-DRR) も入れております。

まとめますと、砂漠化、上水や防災と、これまで個別分野の枠内でそれぞれ協力プログラムを作るような傾向がありましたが、SDGs時代における気候変動適応については、複数分野の相乗効果を目指し、アプローチの選択、予算管理、人材育成、調達、資金動員まで一貫して考えていこうと思っています。

